

岡 病 防 第 12 号
平 成 18 年 10 月 17 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡 山 県 病 害 虫 防 除 所 長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病 害 虫 発 生 予 察 特 殊 報 第 1 号 を 下 記 の と お り 発 表 し た の で 送 付 し ま す 。

平 成 18 年 度 病 害 虫 発 生 予 察 特 殊 報 第 1 号

平 成 18 年 10 月 17 日
岡 山 県

1. 病 害 虫 名 タバココナジラミ・バイオタイプQ (*Bemisia tabaci* Biotype Q)
2. 発 生 作 物 名 ナス
3. 発 生 確 認 場 所 岡山県南部
4. 発 生 確 認 の 経 過
平成 17 年 12 月 及 び 平 成 18 年 5 月 に、岡 山 県 南 部 の 施 設 栽 培 ナス に お い て コナジラミ 類 の 発 生 調 査 を 実 施 し た と ころ、タバココナジラミの発生が認められた。採集した成虫を独立行政法人野菜茶業研究所に送付し、遺伝子解析による同定を依頼したところ、タバココナジラミバイオタイプQであることが判明した。
5. バイオタイプについて
バイオタイプとは、形態的にはほとんど違いがないが、生物学的性質（遺伝子型、薬剤感受性、寄主植物への影響など）が異なる系統のことである。タバココナジラミには 41 のバイオタイプがあり、国内では、バイオタイプB（シルバーリーフコナジラミ）、バイオタイプQ、在来系統（バイオタイプ不明）が確認されている。
6. 形 態
バイオタイプB（シルバーリーフコナジラミ）との形態的な違いは成虫、幼虫とも認められていない。したがって、外観から両バイオタイプを識別することはできない。
7. 生 態 及 び 被 害
(1) スペイン、イタリア、イスラエル、中国、アメリカなどでも発生が確認されているが、生態については不明な点が多い。
(2) ナス科（トマト、ミニトマト、ナス、ピーマン、シシトウ）、ウリ科（キュウリ、メロン）、ユリ科（アスパラガス）、トウダイグサ科（ポインセチア）、キク科（ガーベラ）など多くの野菜、花き等に発生する。

(3) シルバーリーフコナジラミと同様に、トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) を媒介することが確認されており、感染したトマトやミニトマトでは葉巻、萎縮、着果不良などの症状がでる。また、多発すると吸汁による葉や果実の白化症状、排泄物によるすす病の発生が問題となる。

8. 防除対策及び参考事項

- (1) ウイルス病が疑われる苗、コナジラミ類が発生している苗は使用しない。
- (2) ほ場周辺の雑草は増殖源となるので、除草を徹底する。
- (3) 施設栽培では開口部（出入り口、天窗、ハウスサイド）に 0.4mm以下の防虫ネットを張り、外部からの成虫の侵入を防止する。その場合、ハウス内が高温・多湿にならないよう注意する。また、紫外線カットフィルム（侵入防止）、黄色粘着紙（誘殺）、光反射マルチ（忌避）などの物理的防除法を活用する。
- (4) シルバーリーフコナジラミに比べ、ピリプロキシフェン剤（商品名：ラノー）、ネオニコチノイド系剤の一部（商品名：アドマイヤー、アクタラ、ダントツなど）、合成ピレスロイド系剤に対する感受性が低いことが報告されている。したがって、これらの薬剤の防除効果が低い場合は、他の薬剤に切り替える（下表参照）。なお、「タバココナジラミ」、「シルバーリーフコナジラミ」、「コナジラミ類」に登録のある薬剤は、バイオタイプQに使用できる。

タバココナジラミ・バイオタイプQに有効とされる主な防除薬剤（トマト、ミニトマト、ナス）

薬 剤 名	使用時期	使用回数	使用量・希釈倍数	対象作物		
				トマト	ミニ トマト	ナス
ベストガード粒剤	定植時	1回以内	1～2 g/株	○	○	
	播種時又は 鉢上げ時	1回以内	5 g/培土1畝	○	○	
ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	1,000～2,000倍	○	○	○
アルバリン/スタークル 粒剤	育苗期	1回以内	1 g/株	○	○	
	定植時	1回以内		○	○	○
	収穫前日まで	2回以内				○
アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	3,000倍	○	○	○
サンマイトフロアブル	収穫前日まで	2回以内	1,000～1,500倍	○		
オレート液剤	発生初期～収穫 前日まで	—	100倍	○		
粘着くん液剤	収穫前日まで	—	100倍	○		

注) 対象病害虫は「タバココナジラミ」又は「コナジラミ類」。

ベストガード（成分名：ニテンピラム）の総使用回数は、トマト・ミニトマト：それぞれ4回以内（育苗培土混和及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内）、ナス：定植後は3回以内。アルバリン/スタークル（成分名：ジノテフラン）の総使用回数は、トマト・ミニトマト：それぞれ5回以内（育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）、ナス：3回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内）。

- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (6) 栽培終了後は成虫の施設外への分散を防ぐため、株を切断したうえで施設を密閉して蒸し込み、虫を死滅させる。